

5. 精神および行動の障害 (F20 統合失調症)

文献

Behere RV, et al. Effect of yoga therapy on facial emotion recognition deficits, symptoms and functioning in patients with schizophrenia. Acta Psychiatr Scand 2011;123:147-53 Pubmed ID:20846271

1. 目的

統合失調症では顔情動認知障害(facial emotion recognition deficit, FERD)がみられ、社会職業的機能を損ねる原因となっている。そこで抗精神病薬で安定している統合失調症患者の顔情動認知障害に対するヨガの効果を明らかにする。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

インド・バンガロール市の National Institute of Mental Health and Neuro Sciences

4. 参加者

DSM-IVで統合失調症と診断された 18-60 歳の患者 91 名

5. 介入

SVYASA の統合失調症患者用プログラム 60分/1ヶ月間毎日/続く2ヶ月間は自宅実習

Arm1:(介入群): ヨガ群 34名

Arm2:(コントロール群): エクササイズ群 31名 60分/1ヶ月間毎日/2ヶ月自宅実習

Arm3:(コントロール群): 待機群 26名

6. 主なアウトカム評価指数

Positive and Negative Syndrome Scale (PANSS,陽性、陰性症状)、Socio-Occupational Functioning Scale (SOFC,社会職業的機能)、Tool for Recognition of Emotions in Neuropsychiatric Disorders (TRENDS)、TRENDS Accuracy Score (TRACS、情動的表情を正確に認識)を、介入前、2ヶ月後、4ヶ月後の3回測定。

7. 主な結果

介入前、ヨガ実習群は他の2群に対して、PANSS・Negative Symptoms Scale が有意に高く、TRACS が有意に低かった。介入の効果: ヨガ群のみ PANSS・Positive and Negative Symptom Scale (2ヶ月後、 $p=0.002$, $p<0.001$), TRACS(2ヶ月後、 $p=0.003$), SOFC(2ヶ月後、 $p<0.001$) が有意に改善した。この改善効果は2ヶ月後で最も大きかったが、4ヶ月後の改善も有意であった。一方、他の2群では、これらの指標に変化はなかった。

8. 結論

ヨガ療法は抗精神病薬により病状が安定している統合失調症患者のFERDと社会職業的機能を改善する付加的療法として有用である。

9. 安全性に関する言及 なし

10. ドロップアウト率とドロップアウト群の特徴

(ヨガ群): 7名 (エクササイズ群):14名 (待機群):4名

11. ヨガの詳細

ヴィヴェーカナンダ・ヨーガ研究財団 (SVYASA) が開発したプログラムを指導。ルーズニングエクササイズ、アーサナ、呼吸法、リラクゼーションから構成され全体で1時間。

12. Abstractor のコメント

先行研究が乏しいFERDに対するヨーガ療法の効果を検証したこと、特に4ヶ月後時点でも効果が継続している点で意義のある成果と考えられる。ただ、標本分布の正規性について言及はないが、標本数に鑑みればパラメトリック分析による検定には無理があると思われる。

13. Abstractor の推奨度

統合失調症患者に対して投薬と並行してヨーガ療法を実習することを条件付きで勧める。

14. Abstractor and Date

村上 真 岡 孝和 2013.7.2